

き、生徒からは、「普段見られない森林、林業の現地を見られて貴重な体験となりました。森林を育てることの大切さが分かりました。」との感想が添えられました。

中学校教育で森林・林業について教わることが少ない今日、少しでも森林・林業の知識を深めていただければ幸いであり、また、この体験が生徒達の今後の成長の糧となることを願うところです。

「森林の公益的機能について」 信州大学で講演

「中信署」十月十九日(火)、信州大学松本キャンパスにおいて、「森林の公益的機能」と題して、下平中信森林管理署長による講演が行われました。

この講演は、信州大学山岳科学総合研究所と当署が、森林及び山岳分野に係る



下平署長の講演の様子



研究教育と技術開発の相互協力を目的に、平成二十一年七月に締結した「連携・協力に関する協定」の一環として実施したものであり、当日は約五十名の学生が聴講しました。

講演は、森林の持つ多面的機能として、今盛んに論じられている生物多様性の保全、地球温暖化の防止、土砂災害防止、水源かん養、保健機能といった森林の持つ様々な機能により地球環境から人々の生活までが守られていることを紹介しました。

また、森林の歴史と現状として、浮世絵(東海道五十三次)を題材に昔の森林と現代の森林との比較、間伐の必要性、木材供給量や自給率に見る林業情勢等を説明しました。

最後に、林野庁の取組みとして、森林・林業再生プラン、えりも岬の緑化事例を紹介、中信森林管理署の取組みとして、治山事業や低コスト・高効率作業システム、高山動植物の保護活動を紹介しました。

聴講した学生からは、ニホンジカによる被害と対策といった話題から、木材価格の今後の動向、輸入木材の現状、林業労働者の雇用の現状といった質問が出され、森林林業に対する関心の高さが窺えました。

最後には「どうしたら森林管理署で働けるのか」といった声も聞かれるなど、大変有意義な講演となりました。

森林ボランティアの実施について

「中信署」十月十九日(火)、奈川国有林において、長野林業土木協会中信支部と秋の二回実施していただいています。今春は美ヶ原高原における高山植物保護のためのグリーンロープの設置や自動車道沿いのゴミ拾い等を実施していただき関係者から大変感謝されたところです。今回のボランティア作業は、翌日実施される育樹祭の会場準備の一環として、会場の笹刈りや林道の草刈り等を実施していただきました。各種事業が最盛期を



作業を行う長野林業土木協会中信支部の皆さん

迎え準備等の人手が足りない中大変ありがたくタイムリーなものであり、県や市の関係者等からも高く評価されました。当日は、統率された行動で作業をテキパキこなしていただき十五時までの予定時間を大幅に短縮し十三時には解散となりました。

作業の終了挨拶では、当署の有井流域管理調整官からお礼を含めて、中信森林管理署の取り組みとしての森林整備協定や、低コスト・高効率作業システムを紹介しました。

森林整備協定締結を 記念し育樹祭を開催

「中信署」十月二十日(水)、松本市奈川において、中信森林管理署、長野県、松本市、松本広域森林組合、松本市奈川区町会連合会主催による育樹祭を行いました。当日は、奈川小中学校生徒、教職員八十一名、及び地元住民他約四十名が参加し、除伐作業、幼齡木ネット設置作業を実施しました。この育樹祭は、主催者五者によって平成二十一年度に締結した「松本市奈川地区森林整備推進協定」の一環として実施したもので、対象森林において育樹作業を行うことで、地元の森林に親しみや愛着を持ち、森林が有する様々な機能を学んでもらうことを目的として実施しました。

当日は、小中学生の奈川地区を題材とした校歌の歌声が響き渡るなか、和やか



食害防止ネットの支柱を立てる小学生

に開会式が開催されました。

作業にあたり、森林整備を行う意義を説明した後、小学校一、二年生はシカによる食害を防ぐため、ヒノキの幼齢木にネットをかぶせる作業を行い、小学校高学年、中学生やその他の参加者はカラマツ林等において除伐作業を行いました。

参加した小中学生達は「森林の手入れができてよかった」と話し、森林に手を加えることの大切さを学んでいました。

午後は、低コスト施業地見学会、児童を対象としたネイチャーゲーム、松ぼっくりなどの木の実を使ったクラフトを行い、「もう三つもできたよ!」と時間ぎりぎりまで笑顔で自然と触れ合っていました。

八十回目の山神祭は

御柱とともに

「南信署」十月十七日(日)、金沢山国有林において、金沢財産区の山神祭が開催されました。また、本年は七年に一度



地元の皆さんと御柱の曳行

の御柱祭と重なり、茅野市長、地元区長会、消防団、学校関係者等約七十名が参加のもと盛大に開催されました。

この山神祭は、大正十五年に大養毅(木堂)が政界を引退し、富士見町の白林荘で過ごしていた際に、旧金沢村に招かれ金沢山に登り、紅葉等の美しい情景を漢詩に詠んだそうです。その後、木堂は政界に戻り首相となりますが、五・一五事件によりこの世を去ります。昭和六年一月村総会において山の安全祈願のため、この地に山の神を祀ることが決議され、木堂を囲んで記念撮影をした松の根元に石碑を建て、毎年十月十七日に山の関係者が集まり、山の守りと郷土の安全を祈願する祭事が行われており、本年度で八十回目となります。

当日は、好天に恵まれ、木遣りの声を

響かせながら、先ず御柱曳き出しを行いました。当署からは署長以下六名が参加し、地元の歴史ある文化と伝統に触れ感概深い体験を味わいました。

祭事では、茅野市長から金沢山国有林における森林整備のお礼と今後とも適正な管理を期待する旨の挨拶があり、地元参加者からも同様の話が聞かれました。

当署としては、今後とも地元関係者の期待と要望に応えるべく、安全第一に適正な森林整備を推進していくこととしています。

秋のイベントに参加

「森と木のふれあいフェア」

2010・アームレスリングとふるさとフェスティバル

「岐阜署」十月二十三日(土)・二十四日(日)に岐阜県庁前芝生広場において「森と木のふれあいフェア2010」が開催されました。

岐阜森林管理署も木工クラフトやネットプレートの作成を通して、木とのふれあいの場を提供しました。

両日ともに、あいにくの曇り空の下での開催となりましたが、多くの人が訪れ盛況でした。

木工クラフトでは、親子連れでの参加が多く、子ども達の想像力豊かな作品には親御さんも驚くばかりでした。中には子ども以上に夢中になる親御さんもいて終日賑わいをみせていました。



木とのふれあいの場を提供



また、二十四日には下呂市小坂町にて「アームレスリングとふるさとフェスティバル」も行われ、ネットプレートの製作を行いました。市販では見られない木の温もりをもったその出来映えに参加者は喜んでいました。

今後も各種イベントに参加し、木工クラフトなどの取組を通じて国有林のPRに努めていきたいと思えます。

出前森林教室始まる

「岐阜署」当署では十月に入り下呂市内

の小学校を対象に森林教室を実施していきます。これは「下呂市ロータリークラブ」及び「下呂市教育委員会」からの依頼を受けて毎年行っているものです。

当署の森林教室は出前授業の形をとつ

をて業
験え授
交



ており、パネルシアターや実験などを取り入れて、森林の働きや大切さが印象に残るものとなるよう工夫して行っています。これまで実施した学校からは「視覚を始めたとした五感に訴える内容となっていて子ども達も理解しやすい。」などの感想をいただいているところです。

来年の二月までに計十校の森林教室を行うこととしていきますので、学校側の要望も取り入れながらさらに改良を試み、より良い森林教室を行えるよう取り組んでいきたいと考えています。

園児がドングリから育てた 苗木を植樹

「愛知所」COP10開催期間中の十月十二日(火)、瀬戸国有林において、NPO法人子どもの森林づくりネットワーク(東京)と愛知森林管理事務所の共催でCOP10パートナーシップ事業「J.P.子どもの森づくり運動」柏井保育園植樹会が行われました。

J.P.子どもの森づくり運動は、J.P.(日本郵政)がNPOと協力し、全国の保育園児・幼稚園児に森づくりを体験してもらう活動で、拾ったドングリを園で育てて森に植えるという活動を通じて、子ども達に「たくましく生きる力」と「環境意識」を育むことを目的としています。この運動に賛同した愛知県春日井市の柏井保育園では、園児たちが園庭で拾ったドングリを発芽させ二年間育て、およそ二〇センチほどに成長したクスギやコナラの苗木を、瀬戸国有林定光寺キャンプ場の危険木処理跡地(カシノナガキタイムシ被害による)へ植樹しました。

当日は秋晴れの中、年長児三十二名は、随行する愛知所職員の指導を受け、慣れない手つきで穴を掘り、約四十本の苗木を丁寧に植えた後、「大きくなってね」



植樹を
終えて



しっかり根付くよう
丁寧に植付

と願いをかけながら、じょうろで水をかけた後、「またお家の人と見に来るよ」と苗木に話しかけたりしていました。

COP10が地元で開催される愛知県では、これを契機に生物多様性の重要性など自然環境への意識が高まっており、子ども達が自然とふれあう機会を通じて環境意識を育む取組が種々行われています。

今後も国有林に対する、環境教育・環境学習の場としての要請に協力したいと考えています。

シリーズ 現場最前線

力強い森作りと明るい職場作りは
全て「和」からはじまる

「木曽森林管理署北小川班」

木曽森林管理署の上松地区は、中央アルプスの峰からなだらかに木曽川へ広がる駒ヶ岳国有林、里に台ヶ峰国有林、奥地に日本三大美林の一つ木曽ヒノキの森や森林浴発祥の地「赤沢自然休養林」がある小川入国有林、官行造林地を含め約一一、〇〇〇畝の国有林を三森林事務所(南小川、北小川、駒ヶ岳)で管理しています。

この林野庁の歴史とひのき薫る国有林で活躍する北小川班は、小川入国有林約二、四〇〇畝を管轄し、基幹作業職員四

名で作業を行っています。

全員が採用当時から森林技術センター廃止に至るまで製品生産事業に従事し、その後、森林の育成・整備など守り育てる事業にシフトしましたが、大きな変革に対しても「人の和」を大切に、即座に気持ちを切り替え、心身ともに健康を保って長期間ゼロ災害を継続しています。

管内には多くの分収育林があり、隣接する林分に熊の皮剥被害が目立ってきているため、対策として皮剥防止テープを巻き、被害の未然防止に努めています。

ひのき一本一本に対する気遣いが災害に強く保水力の高い山を作り、相手への思いやりが明るい職場を作り、その延長線上に災害のない職場が築かれることをイメージしながら森林整備を行っています。これからも「人の和」を大切に、将来の山作りと心身の健康作り全員で取り組んでいきたいと考えています。



人の和をモットーに作業に当たる
北小川班の皆さん



富士見台と神坂大樹

【東濃署】 当署が管轄する湯舟沢国国有林は、中津川市の南東部、長野県との県境に位置する面積約二、六〇〇畝の国有林です。平成十七年に長野県から岐阜県中津川市に合併された際に当署の管轄区域となりました。この湯舟沢国国有林には沢山の見所がありますが、その一つに「神



枝振りが見事な神坂大樹

坂大樹（みさかおおひ）」と呼ばれる一本の巨木があります。

「神坂大樹」は恵那山の北側、サワラやモミ、ツガなどの天然木に囲まれた、標高約一、三〇〇メートルの位置に立っており、胸高直径二・三メートル、樹高二五メートル、推定樹齢が千年を超えるとされるその立ち姿は、見る者を圧倒します。一九九七年に付知町の牧野義則氏が発見し、その大きさを枝振りの見事さが評価され、「森林の巨人たち百選」にも選定されました。

市の内外からも多くの観光客が訪れ、特に紅葉の時期には地元で開催される「東山道もみじまつり」からの見学ツアーが恒例行事となっています。

現在は地元住民による「神坂大樹保全協議会」が当署と協力して保護柵の設置や歩道の整備、樹木医による診断を行うなど、地元のシンボルとして大切に守ら

れています。

また、長野県との県境には神坂峠があります。湯舟沢国国有林内には畿内から羽前・羽後の国へと続く東山道が通っており、神坂峠は東山道最大の難所として旅人に恐れられてきました。

この峠の歴史は古く、日本書紀に書かれたヤマトタケルの伝説にも登場し、万葉集には「ちはやぶる神の御坂に幣まつり いはふいのちは母父がため」と旅の安全を祈った防人の歌が残されています。

中山道が発展するようになり、東山道は歴史の陰に埋もれていましたが、現在は恵那山や富士見台への登山道として利用されており、当時の面影そのままに登山者の歩く姿が見られます。



富士見台へと続く登山道



湯舟沢国国有林にある風穴
(かつては蚕種の保冷にも使われていた)

◆アクセス

中央道中津川ICから国道一九号線を長野方面へ向かい、落合の交差点を右折して二十分程度で湯舟沢国国有林へ到着。
さらに十五分程で神坂峠へ。

行事・会議等の予定

- ◎低コスト作業システム現地検討会
12月1日 南信署管内
- ◎国有林治山事業打ち合わせ
12月7～8日 愛知所管内
- ◎国有林の地域別の森林計画等検討会
12月7～16日 長野市(局)
- ◎森林ふれあい講座
12月17日 長野市(局)
- ◎森林ふれあい講座
12月11日 名古屋事務所